

第3回 毛呂山町

ビジネスコンテスト結果発表

「毛呂山町ビジネスコンテスト」では、ソーシャルビジネスにより地域課題を解決することを目的として、毛呂山町内で事業化されるユニークで有望なアイデアを募集しました。10月26日に一次審査が行われ、各提案者がプレゼンテーションを行い、大学生を中心とした30歳以下の若者や埼玉県産業振興公社職員、大学教授などによる審査が行われました。11月1日には二次審査が行われ、各提案者のプレゼンテーション後、補助金額等の決定が行われました。今回の特集では採択された5組をご紹介します。また、共感する事業へのご寄附が可能なプロジェクトもあります。詳しくは折込チラシまたは2次元コードをご覧ください。

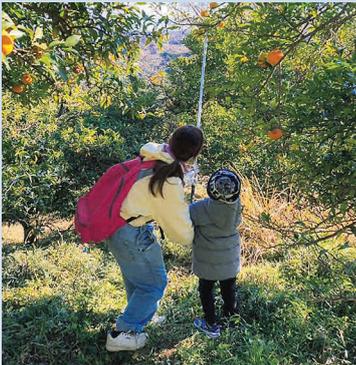
主催・問合せ 株式会社もろやま創成舎（役場205会議室）

☎ 050-3204-0415 ✉ info@souseisha.biz



今、ここにある価値で

～もろやまの未来を笑顔に 桂木ゆず体験型ベース～



毛呂山町を愉しむ基地、『桂木ゆず体験BASE』を建設。桂木ゆずを収穫し、その場で味わう収穫体験や桂木ゆずの活用方法を習得できるワークショップを開催。来訪者に町内の飲食店を紹介し地元店舗の集客にも繋げる。ゆずの特産品を集結させたショップとカフェも併設し、毛呂山の魅力を余すことなく発信。

プロジェクトの概要



喜代美園 いけば池辺 さちこ

毛呂山町生まれ。大学卒業後、都内でTV番組制作に携わる。コロナの影響を機に帰省。地元での自然や「桂木ゆず」の価値に改めて気づき、農業経験・ビジネス経験ゼロから継承を試みる。



おしま しんたろう
(株)ヤママップ 小島 慎太郎

東京でエンジニアに従事後、狩猟免許を生かすため、地域おこし協力隊として、狩猟後に廃棄されるシカ皮を活用する事業を立ち上げる。2021年より(株)ヤママップに入社。

広葉樹の森づくりと西川材を活かした 毛呂山町活性化プロジェクト



植樹イベントや自然体験プログラムで広葉樹を植樹し、生態系の回復を進めるとともに、新たな人の流れを創出する。さらに、西川材を活用した製品開発を進め、地域経済の活性化を図る。資金集めのPRにはYAMAPアプリ(460万ダウンロード)のユーザーにプッシュ通知を行う。

プロジェクトの概要

ドリームゲートパークプロジェクト ～子どもたちと毛呂山町の未来を創造したい～



未利用の町有施設をリノベーションし、スケートボードパーク、常設野外ステージを建設・運営。若者の新たな居場所を創ること
で、今の子どもたちが社会人になっても、毛呂山町に住み続けたい、関わりたいと思えるような環境を作っていく。

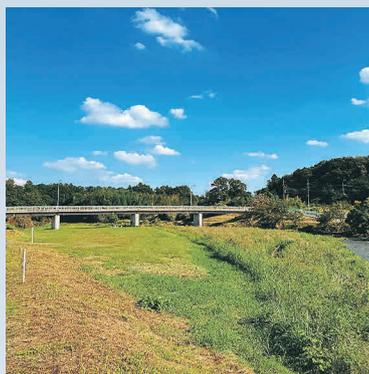
プロジェクトの概要



TEAM MOREMORO
まつもと ゆうた 松本 裕太
よしだ たけし 吉田 武史

毛呂山町在住。本業の傍ら、音楽活動プロデュースやアーバンスポーツの普及活動を行う。そんな両者が想う、若者が流出していかない魅力ある地域づくりについての提案。

「森のかがやき と わんこの集い」 ～焚き火とドッグランのイベントを通じた 地域課題の解決プロジェクト～



西戸グラウンド横のスペースなどの遊休地を活用して、焚き火とドッグランのどちらも自由に楽しめる場所を提供したい。夜には星空観賞や花火を楽しむイベントを開催する。犬好きとアウトドア好きの顧客層にアピールし、交流人口を増加させる。担い手には地域の大学生が参画する。

プロジェクトの概要

西武文理大学 中谷ゼミナール
こばやし みか 小林 美珂
おがさわら りょうすけ 小笠原 諒祐

埼玉の地域課題について学び、取り組む。現在はキッチンカーを用いた販賣の創出による地域課題解決にも取り組む。地元の人では気づけない町外の学生ならではの着眼。

毛呂山町デジタル人財の育成 ～デジタルアートサークル運営事業～



町内の小中学生を対象に、タブレットを使ったお絵描きなどを通して、遊びながらデジタル技能が身に着く「デジタルなお絵描きサークル」を無償で運営。若い世代からデジタル機器に触れてもらうことで、将来、生まれ育った毛呂山町で暮らしながらリモートで働ける人を増やし、人口流出減少を目指す。

プロジェクトの概要



(株) デジラボホールディングス
とりまる ひろき 鳥丸 弘樹

自治体と連携し、小規模事業者の事業継続や収益性向上に向けた無償のDX支援などを通じ、人々の暮らしがより豊かになるようなITを活用したサービス展開に取り組む。